

講演

現代日本におけるダンス・フェスティバルの展開 よさこい/YOSAKOI系祭りを事例に

お茶の水女子大学 内田 忠賢

0) 本報告の趣旨

近年、全国各地に急速に増殖・展開する「よさこい」あるいは「YOSAKOI」と呼ばれるダンス・フェスティバルを事例に、その実態や社会・文化的意義、そして舞踊活動としての特徴を紹介する。

元祖「よさこい祭り」は踊りが中心となるイベント祭りで、戦後、高知市で始められた。それを模倣した祭りが12年前、札幌市で始められたことをきっかけに、急速に全国各地に広まっている。2002年（平成14）末現在、全国222カ所（あるNPOの集計）において、類似の祭りが地域活性化を目的に開催されている。札幌の祭りは「YOSAKOI」と表記され、この表記を採用する祭りが少なくないため、仮に「よさこい/YOSAKOI系祭り」と名付けてみた。両手に鳴子を持ち、主催者が指定するテーマソングを曲の一部に含める以外、音楽や振り付けは、基本的にまったく自由である。この緩やかな参加条件が特徴である。個人によるダンス・コンテストではなく、老若男女が集団で舞い踊る。なお、素人で構成される複数のチームが、「鳴子踊り」を競演するイベントは、報告者が把握する限り、実は、上記の開催地数の2、3倍規模で開催されていると推測する。したがって、このような祭りをダンス・フェスティバルと分類しても構わないならば、現代日本で、もっとも活発なダンス・フェスティバル群のひとつであろう。

1) 高知「よさこい祭り」

この祭りは、昭和29（1954）年に商店街の活性化のため、行政（商工会議所）主導で始められた。最初は、地元の日本舞踊の師匠たちや音楽家が創作した「よさこい鳴子踊り」（正調）を競演していたにすぎない。民謡「よさこい節」を踊りの音楽の一部含めることが参加条件だった（現在も同じ）。全国規模の郷土芸能大会や海外のイベントに出場し、テレビ中継が行われるようになると、見せる踊りとして、正調をアレンジした踊りがチーム（踊り子隊）ごとに創作され、普及した。やがて、1980年代に入ると、多様な振り付けや音楽のチームが数多く現れ、毎年、新しい踊りを披露し、競うようになった。2003年には190チーム、踊り子約2万人、観客約100万人と、名実ともに

高知県最大のイベントである。また、全国からチームが参加するものの、高知市内のチームが主体である。各チームの母体も、商店街や町内会単位から、企業や学校単位へ、さらには同好会のチームへと変遷した。現在では、チームの母体が商店街や企業であっても、それらと無関係なメンバーが一般から募集されている。社会学的に言えば、団体の結合契機は地縁、社縁、選択縁と変質している。会場も、商店街の盛衰に対応して、適宜、変更されてきた。変化することを良しとするため、およそ、伝統芸能とは異なる祭りである。

2) 札幌「YOSAKOIソーラン祭り」

平成4（1994）年、高知の祭りを模倣したイベントが札幌市で開催された。熱意ある大学生たちが、地域を巻き込んで始めた「YOSAKOIソーラン祭り」である。住民参加型の祭りが少なかった北海道では、大当たりした。踊りの時間制限など細かいルールはあるものの、重要な参加条件は、鳴子を持つことと音楽の一部にソーラン節を含むというだけである。さらに、各チームの音楽には、それぞれの地元の民謡が含まれることも推奨された。出場者数は最初、千人程度だったが、その後、全国各地から踊り子が積極的に参加し、2003年には、37都道府県から330チームが参加し、踊り子約3万4千人が舞い踊る北海道最大のイベントに成長した。高知より規模が大きいのは、道内だけでなく、全国各地から多数の参加があり、ダンスを競演していることである。「よっちょれ（どっこいしょ）」と名付けられた共通のダンスも創作され、「総踊り」として利用された。現在では、「おかみさんソーラン」「ソーラン・ソーラン」という新しい創作ダンスも共通の踊りに位置付けられた。また、稚内南中学校で創作された「南中ソーラン」というダンスも参加者全員が踊れるよう推奨される。これらのダンスは、「YOSAKOIソーラン祭り」組織委員会から、全国に発信されている。商工会議所や道庁など行政のバックアップもあるが、自主運営を理念とするため、巨大化した祭りの経費捻出を目指した綿密なシステムも特色である。

3) 全国各地に展開する「よさこい/YOSAKOI系祭り」

前述のように、現在、全国数百カ所で、「よさ

こい/YOSAKOI系祭り」が開催されている（イベントの出し物の一部となっている場合も含む）。札幌を手本とする祭りが多いが、高知の影響を受けた祭りも少なくない。いずれも、地元の商工会議所などをバックにした地域活性化のイベントである。観光客誘致など経済面での活性化だけでなく、地域のアイデンティティを養えることや、地域の社会教育に役立つなど、優良イベントの代表格である。また、主たるパフォーマンスは、道路など野外で披露されるので、会場には、いわゆる「箱もの」は不要であり、主催者にとっては、ある意味で安上がりなイベントである。また、老若男女が気軽に参加できる優良イベントであるため、地域活動や学校教育との連携、健康づくりの一環として、地域の人々からの支持も得やすい。個々の祭りの参加チームも、地元以外が少なくなく、相互の交流活動も盛んで、地域間ネットワークの形成にも役立っている。なお、報告者は踊り子として千葉船橋市のチームに属し、参与観察調査を続けている。このチームのメンバーは市内在住の他、周辺市町に及ぶ。チームは、旧来の地縁や社縁を背景としていないクラブチームであるため、参加に際しての拘束が少なく、同時に活発かつ自主的な活動を展開する。商工会議所のバックアップもあるが、自主運営をモットーにする。札幌出場を最終目標とするダンスに関しては、踊りはセミプロが創作・指導し、音楽は「YOSAKOI」系音楽を創作するプロに発注している。毎年、新しく創作されるダンスには「ソーラン節」だけでなく、千葉県内のいくつかの民謡も採用される。このチームも他の団体同様、毎週のように、県内外各地でイベントに参加し、競演している。地域間のネットワークとして、県内の複数のチームと「ChiよRen（千葉よさこい連絡協議会）」を組織し、様々な文化活動も行っている。同時にチーム間の交流も盛んである。

4) 高知「よさこい祭り」にみるパフォーマンスと振り付け師

上述のように最初、民謡をアレンジした踊り（正調）が創作された。1970年代、他所への遠征や普及のため、サンバ調の踊りが創作される。このことが老若男女の参加、特に若年層の参加を加速させた。1980年代に入ると、ロック調、サルサ調など多様で自由なパフォーマンスが創作された。特に、ジャズダンス風の踊りが多くなった。その理由は、参加チームが急増し、同時にチームごとに踊りの個性を競うため、踊り指導者（振り付け師）をジャズダンスのインストラクターに依頼するようになったからである。1990年代に入ると、「セントラル」というチームを代表する和風を強調した踊りが優勢になってきた。札幌の「YOSAKOI

ソーラン祭り」の基本となった踊りも、高知のこのチームの影響が大きい。当時の「セントラル」の指導者は、高知市内の有力なジャズダンス代表であった。後に、この指導者は札幌の主催者側と袂を分かつようになるものの、「よさこい祭り」の動向を指導者が左右したことは間違いない。なお、「YOSAKOIソーラン祭り」に参加するチームの大多数が、激しい踊りを含む和風のパフォーマンスを披露する。

2002年度の高知「よさこい祭り」で、2チーム以上の踊りを指導した振り付け師は13人である。彼らは、参加チーム総数159団体のうち、44団体、しかも有カチームを彼らは指導した。田村千賀、国友須賀、時久紀恵という3名の人気振り付け師は、5チーム以上を担当した。振り付け師は、それぞれの踊りの曲づくりにも影響を及ぼす。振り付けが自由であるため、彼らに与えられた役割は大きい。祭り全体の雰囲気や動向は、彼らの創作する踊りのパフォーマンスに左右されると言っても過言でない。1980年代以降、各チームが参加者を募り、逆に参加者は参加費を払ってチームを選ぶシステム（「一般募集」）が普及したため、個々のチームを誰が振り付けるかという情報で、チームを選ぶ人が少なくない。さらには、市内でジャズダンススクールを主宰する国友須賀は最も代表的な指導者であるが、独力で参加者を全国から募り、彼女の個性を全面に出した複数のチームを組織、指導している。

5) よさこい/YOSAKOI系ダンス・フェスティバルの可能性

よさこい/YOSAKOI系祭りにはコンテスト的な場面もあるが、基本的には賞の序列化が少なく、チームごとの個性や身体能力に応じて、踊りを楽しめることが大きな特徴である。若者だけのチームだけでなく、老若男女が交じりあったチームが多い。世代間の交流は社会教育的効果が大きく、新たな人間関係を育成する。また、体力に合わせたパフォーマンスは、参加者の健康づくりに役立つ。素人が主役ながら、舞踊文化の展開や普及に役立つことは間違いない。チーム間、地域間のネットワーク形成は、新しい社会関係の展開に結び付く。しばしば語られる、狭い意味での地域の活性化にとどまらない可能性を、よさこい/YOSAKOI系祭りは含んでいる。むろん、この系列の祭りだけが、上記の役割を果たす訳ではないが、20世紀末から21世紀初めのダンス・フェスティバルの中では、もっとも注目すべきものであろう。同時に、これは一時的な流行現象となる可能性も否定できないが、舞踊学の研究対象としても重要であらう。

[付記] 当日は、非会員（人文地理学）の報告者

に基調講演という大役をお与え下さり、ありがとうございました。特に、ご推薦下さった片岡康子教授（お茶大）に心からお礼申し上げます。なお、報告者は『よさこい/YOSAKOI学リーディングス』（編著，開成出版）という論文集を公刊しました。参考にしていただければ，幸甚に存じます。